

事前の御質問・御意見に対する回答

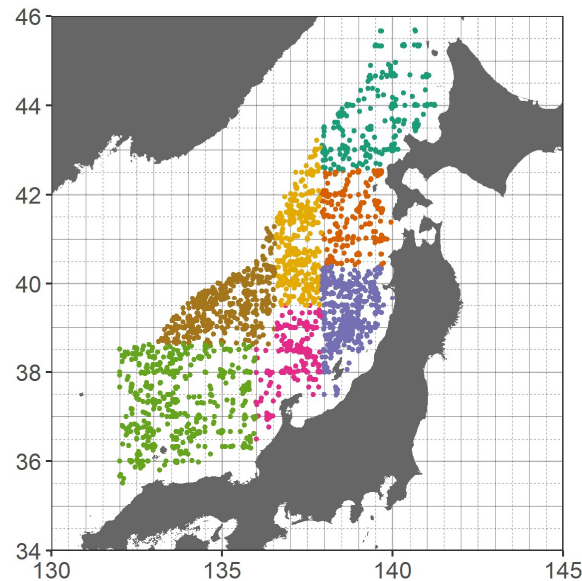
質問：将来的な対応として、新規加入量調査等の、加入量等の指標を毎年のABC計算に組み込む等の方法で、漁獲対象年級群に関するデータを考慮したより順応的な資源評価を実施していくことは可能でしょうか。

令和3年10月の第2回スルメイカSH会議にて、

「漁期中調査直後に（将来予測を行わずに）資源評価を行った場合の、将来予測に基づく資源量予測値と漁期中調査直後の資源量推定値との比較」の検討依頼について、「早期モニタリング指標値による資源量予測精度」として回答

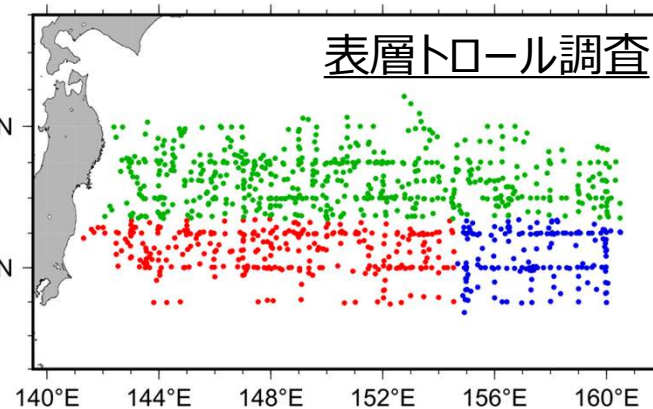
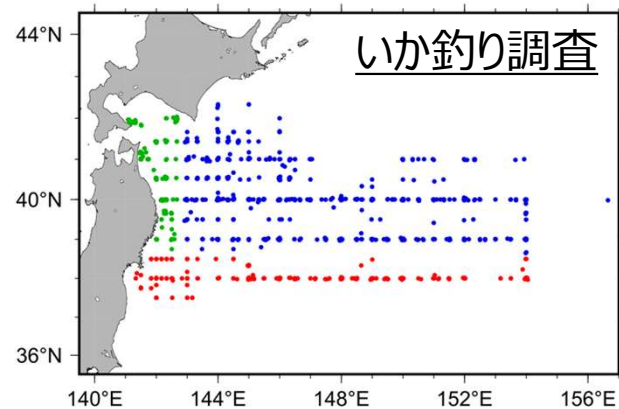
漁期中調査について

秋季発生系群



- 6～7月
- いか釣り調査

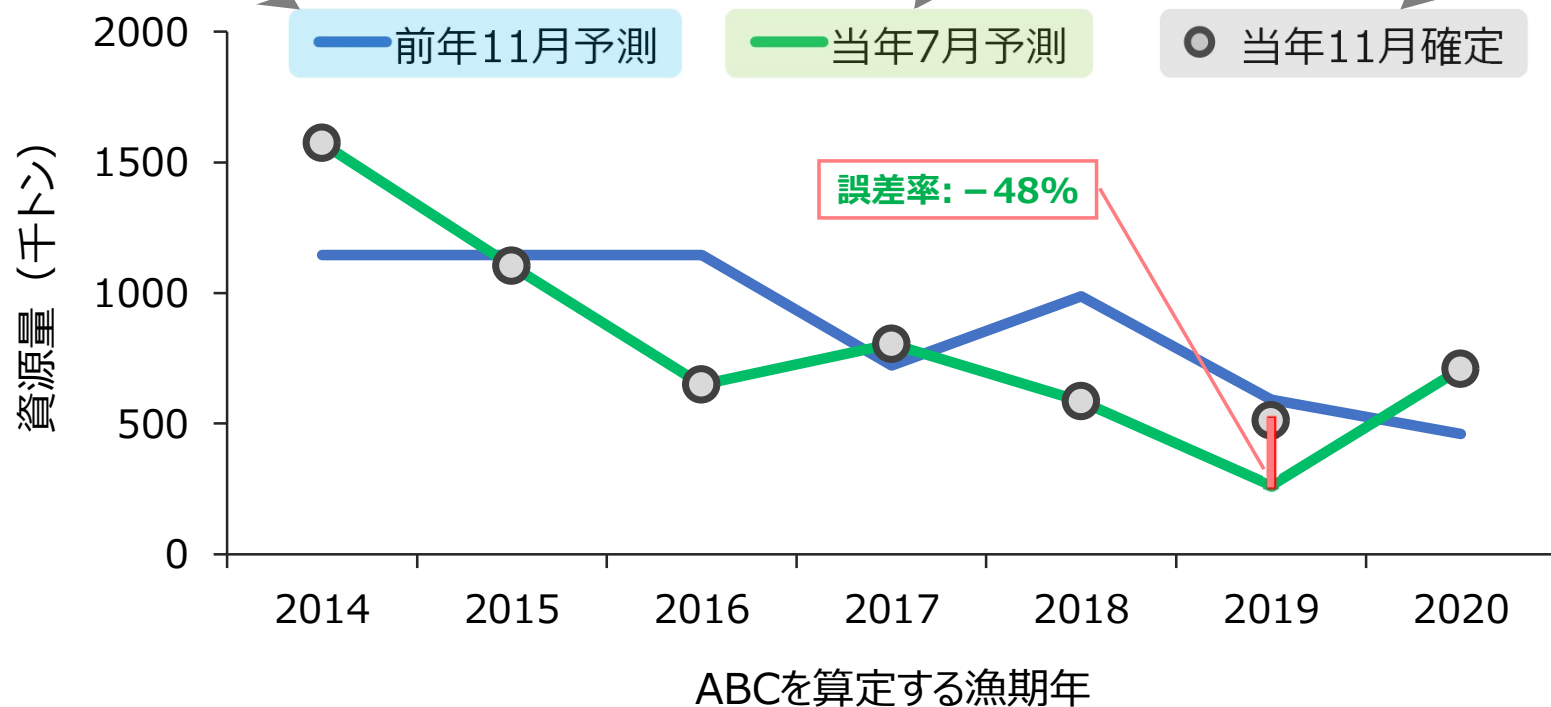
冬季発生系群



- 5～7月
- いか釣り調査
- 表層トロール調査

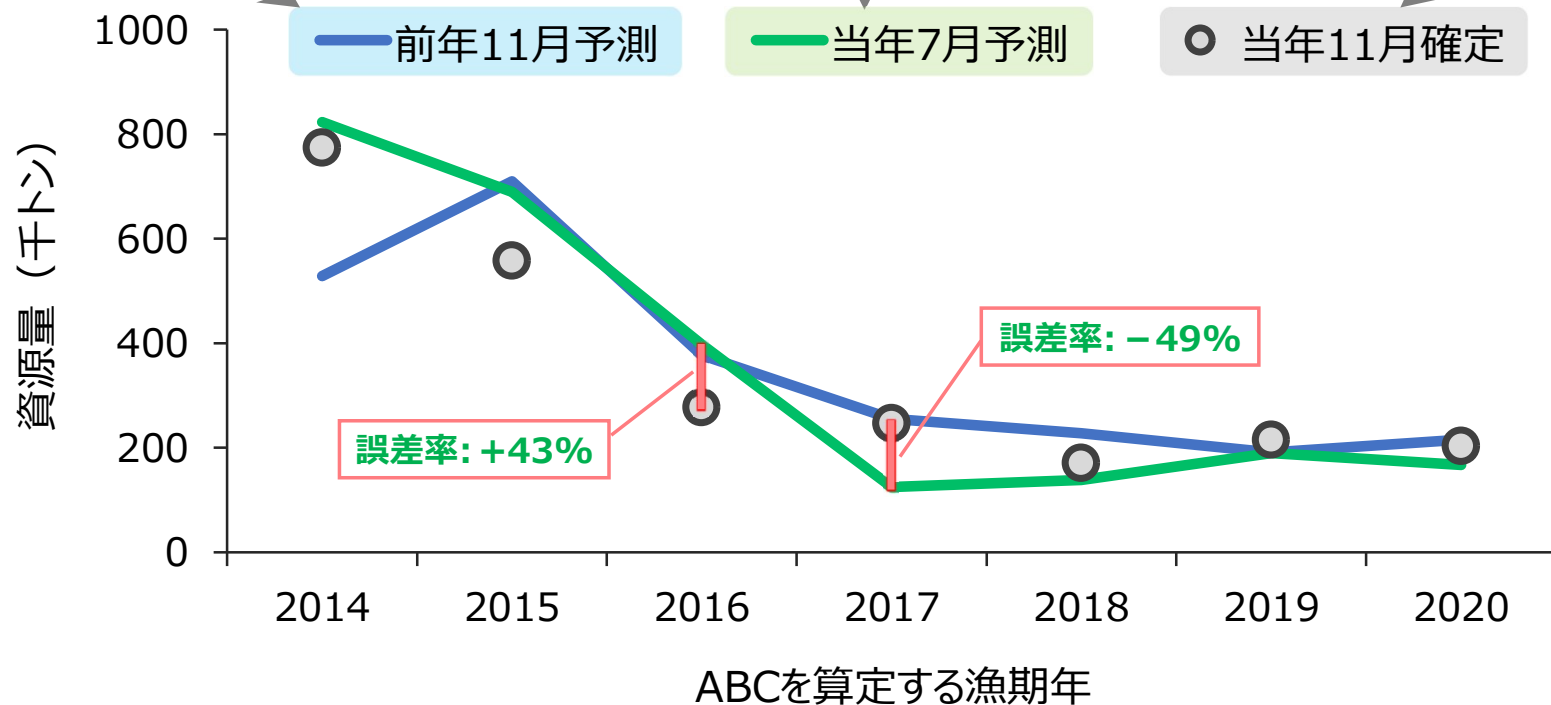
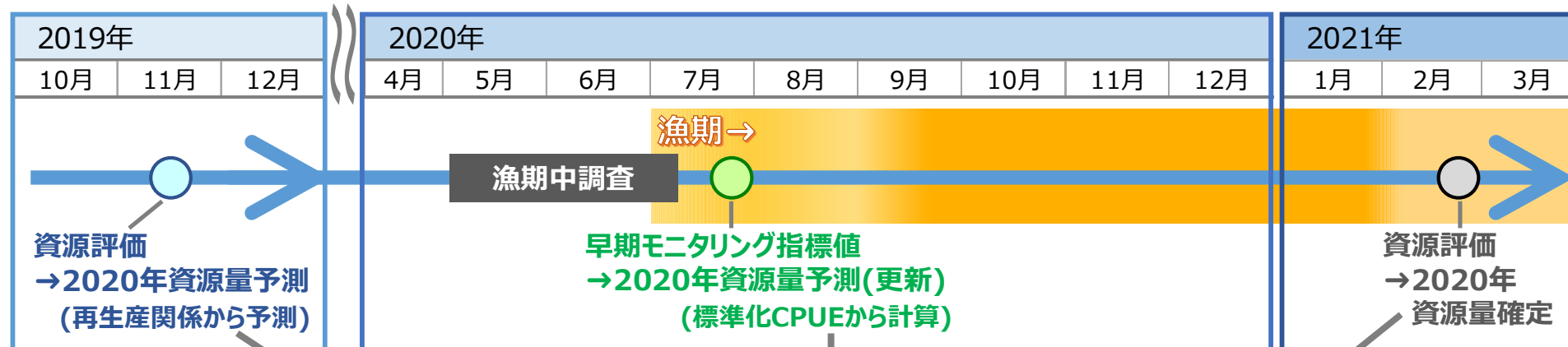
1. 早期モニタリング指標値による資源量予測精度

資源量予測精度の検証（秋季発生系群）



1. 早期モニタリング指標値による資源量予測精度

資源量予測精度の検証（冬季発生系群）



まとめ

秋季発生系群

✓ 漁期中調査直後に資源量を推定できる可能性が高いが、資源の分布が例年と大きく異なると大きな誤差が生じる

✓ 主漁期は4～11月であり、漁期中調査の時期（6～7月）は本系群の盛漁期と重なり、資源量予測値が利用可能になるのは漁期の終盤

冬季発生系群

✓ 前年11月よりも漁期中調査後の当年7月の方が予測資源量の全体的な精度は上がるが、精度が悪くなる年も多い

□ 漁期中調査直後の資源量予測値による資源評価・管理をするには実用上の問題がある

□ 早期の資源水準判断や緊急ルール発動のためのツールとしての可能性